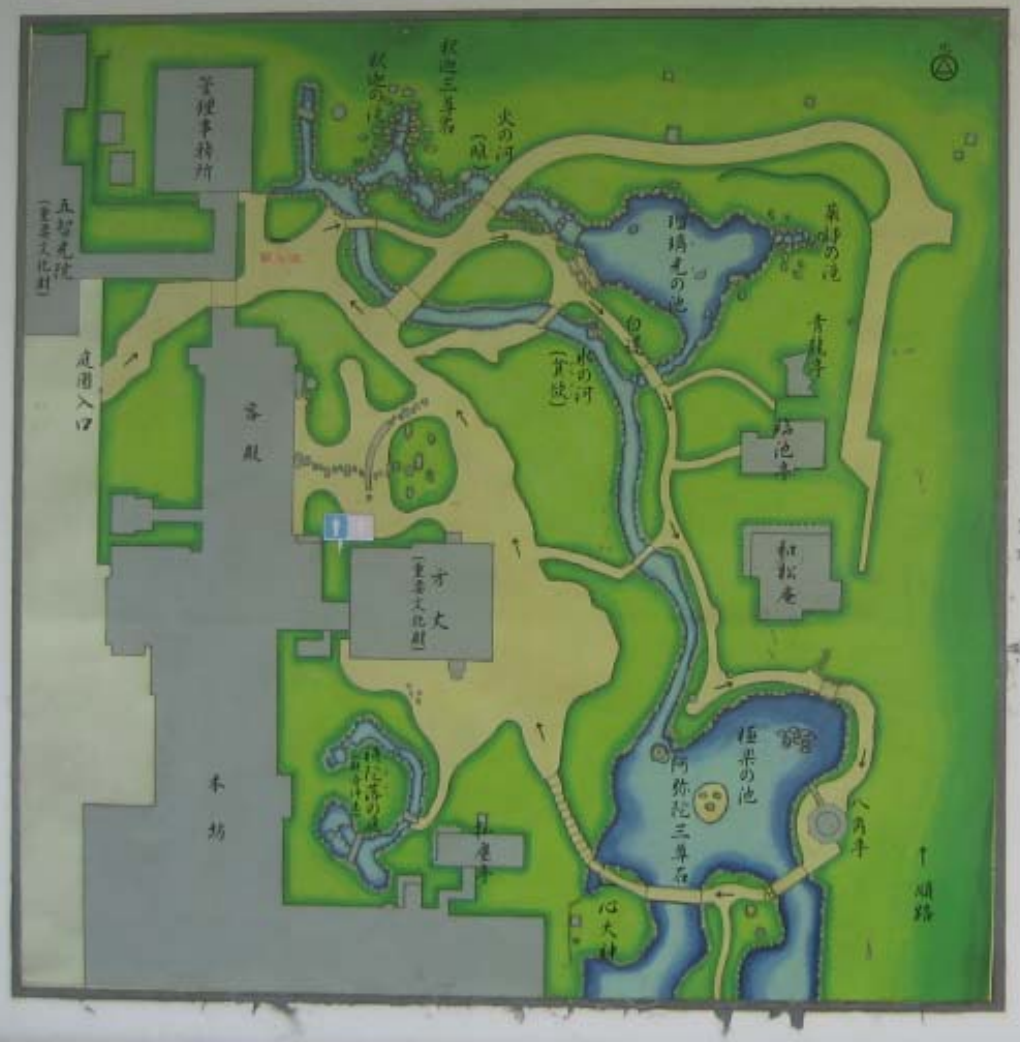
庭園入口

極楽浄土の庭



この庭は、中国の伝説である善導が「散善義」で説いた「二河白道」のたとえ話を基に設計、造園されています。

二河白道のたとえ話は以下のとおりです。

二河は「水の河」と「火の河」を指しています。水の河は人生の順境にあるときの貪（むさぼること）であり、火の河は人生の逆境にある時の瞋（怒り恨むこと）であります。この二河は生き地獄であり、二つの河にはさまれた「白道」を極楽浄土への道（仏法）とたとえているのです。

二河という地獄の真ん中に、極楽浄土に至る道が細くのびていますが、我々凡夫な者にはこの道が見えません。しかし、極楽浄土への往生を真に願う者には見え、白道を辿ると極楽浄土に達し、往生できるという教えなのです。

庭に入ると、人々は入口で釈迦三尊にみたてた庭石にむかえられます。

ここで、人々は「さあ、極楽浄土を目指しなさい」という釈迦三尊の励ましの声を聞き、前に進みます。前方には、二つの滝（釈迦の滝、薬師の滝）から流れ出た水がつくりだす池（瑠璃光の池）が広がり、それに沿かって道（白道）が通っています。道の右側には貪りを象徴する「水の河」、左側は瞋りを象徴する「火の河」で、二つの河が地獄をあらわしています。道はさらにのびて、阿弥陀三尊にみたてた庭石がうかぶ池（極楽の池）に至ります。

人々は、阿弥陀三尊に招かれて極楽浄土に到達し、蓮華の花が咲き乱れる庭園の美しさと相まって、極楽浄土（往生したかのような感動を味わうことができるでしょう。

青龍亭

和松庵